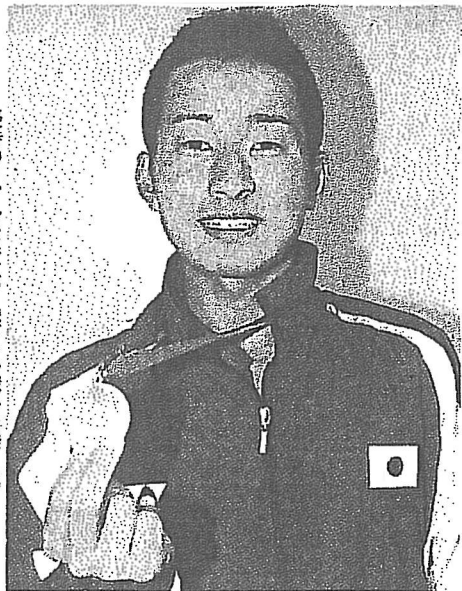


Jr.デビスカップテニス

河内選手(相生学院高)ら日本勢初

男子、カナダチーム破る

メキシコで9月28〜10月3日に開かれた、16歳以下の男子選手によるテニスの国別対抗戦「ジュニアデビスカップ」決勝大会に出場した私立相生学院高(本校・相生市野瀬)1年河内一真選手(16)ら男子チーム(3人)が、決勝戦でカナダチームを下して初優勝を果たした。同大会での日本勢はこれまで、錦織圭選手らが出場した2005年の5位が最高。終盤まで不調に苦しんだ河内選手は「つらい試合を経験して一回り大きくなれた」と快挙を振り返った。



優勝のメダルを手に、「苦しい戦いを乗り越える」と成長できた」と振り返る河内選手

松岡修造氏も「快挙」

大会には、チリやカナダ、オーストラリアなど予選を通過した16か国が参加した。シングルス2戦、ダブルス1戦を行い、先に2勝した国が次に進むルール。4か国ずつのリーグ戦に分かれて争い、各リーグの成績順でトーナメントを戦った。

河内選手は、シングルス

の1番手で出場。チームの勢いを左右する立場だが、初戦のメキシコ戦ではプレッシャーから動きが硬くなった。さらに、標高2000m級の試合会場の環境にも苦しんだ。「空気が薄くて呼吸が苦しく、ボールは浮き上がる。最悪の状況だった」。本来のキレを取り戻せないまま敗戦した。

シングルス2番手やダブルスの健闘でリーグ戦を1位通過したが、不調の河内選手は相手のミスを待つ消極的なプレーが続いた。トーナメント初戦のフランス戦シングルスで敗れると、1番手を辞退することも考えた。しかし、決勝戦前夜、岩本功監督がメンバーを前に「負けているけれど河内を使う。自分を信じて殻を破れ」と励まされ、気持ち

が吹っ切れた。攻めの姿勢で臨んだカナダ戦。得意のバックハンドが安定感を取り戻すと、その自信からフォアハンドのスピードも増した。体格で

勝るカナダ選手を前後左右に揺さぶり、7-6、6-1で圧勝した。河内選手の勝利に勢いづいた日本勢は、2番手の選手も快勝し、シングルス2勝で優勝を決めた。

河内選手らの活躍に、周囲の期待は高まる。強化キャンプで指導した元プロ選手の松岡修造氏からも「日本テニス界の快挙。さらに上を目指して頑張れ」とたたえられた。河内選手は「これからの一戦一戦を大事に戦って、世界4大会で活躍できる選手になりたい」と、将来の目標を語っていた。

河内選手は、